**令和７年度　第１回　ヨコハマ国際まちづくり推進委員会　会議録**

|  |  |
| --- | --- |
| 日時 | 令和７年６月10日（木）10時00分～11時30分 |
| 開催場所 | 市庁舎18階共用会議室　みなと４.５ |
| 出席者 | 木村委員、齊藤委員、三枝委員、韓委員、福山委員、四元委員 |
| 欠席者 | 北川委員、鬼頭委員、坪谷委員、バートン委員、細谷委員 |
| 開催形態 | 公開（傍聴者0人） |

　委員長の選任等

【決定事項】

・委員長として三枝委員を選出した。

議事（１）　令和７年度国際局運営方針について

【主な意見】

・安全性の高い職場とありますが、今までが低かったわけではなく、さらにもっとということですね。

→そのとおりです。

・インクルーシブ社会の実現に向け、具体的にどのように展開していくことになりますか。

→資料２の９ページに詳細を記載しています。

外国人材受入・共生推進事業にはいくつか柱があります。まずボランティアの通訳派遣の関係、多文化共生総合相談センターとラウンジによる多言語での相談・情報提供です。また、日本語の支援のニーズが高まっています。国際交流ラウンジ未設置区が５区ありますので、こちらを中心にボランティアの養成講座、ブラッシュアップ講座等を新しく開催し、支援者を増やしていきたいと考えています。昨年度も試行的に実施した、災害時の在住外国人の方の支援を今年度は拡充し、地域で実施する防災訓練に外国人の方にご参加いただき、地域の方と何が一緒にできるか伝える場とすることを考えています。

・教育委員会の学校現場も他国籍の方が多いと思います。どのように連携しますか。

→外国にルーツがあるお子様方も非常に増えている状況です。教育委員会の関係部署とは密に連携をとっています。学校で支援が行き届かないところはラウンジ等でもフォローするということで力を入れています。

　・目標達成に向けた施策に新たな地震防災戦略を踏まえると記載されていますが、在住外国人の位置づけはどのように考えていますか。

　→外国人の方を取り残さないかたちで共助の大切な仲間として記載しています。

日本における防災のしくみを理解いただける機会を設け、ゆくゆくは外国人の方も地域で防災における大切な役割を担っていただきたいと考えています。

・グローバル人材育成について詳しく教えてください。

→教育委員会と密に連携して行っている事業です。

国際局の担う事業の1つとして、高校生の留学支援事業を実施しております。高校生が自らコーディネートした留学に対し、市が補助金を交付します。補助金を交付後に留学し、帰国後は留学で得た経験を自分の将来の糧にするだけでなく、周りの人に広める役割を担っていただきます。補助金交付、留学に行く、帰国後は次に続くグローバル人材の育成を担う、というように循環する形で事業を実施しています。

　・TICAD９の準備状況、今後の本番に向けた状況をご紹介いただけますか。

　→経済界、アフリカの大使館関係者、議員（国会議員、県会議員、市会議員）等が集まる推進協議会を本市で立ち上げており、６月20日開催予定です。

TICAD開催の周知に向けた機運醸成のため、市民がアフリカの食や文化に触れて頂けるイベントを用意しています。

７月・８月はアフリカ月間とし、みなとみらいのクイーンズスクエアの舞台でアフリカの音楽やダンスなどを披露するイベントを開催予定です。また、コーヒー豆はアフリカと縁があるということから、スターバックスとも連携するなど飲食店にもご協力いただき、食の分野でもアフリカを盛り上げます。ビジネスセミナーではアフリカへの進出を検討している企業に向けた、アフリカ進出の事例紹介を行うセミナーを予定しています。

　・グリーン分野の国際展開について、GREEN×EXPO 2027以外の今年の計画について、教えてください。

　→横浜市のグリーン分野を中心に世界とつながる取組として、これまでも13回続けてきたアジア・スマートシティ会議があります。アジアの国と強固な関係づくりをしてきたところから一歩進み、グリーン分野で先進的な技術が成功しているヨーロッパを中心とした各国と横浜の先進的な技術があるところを繋ぎ、一緒になって取組を進めていこうと、今年度はさらに力を入れています。会議の内容については後ほどご説明します。

・運営について

横浜市の国際政策を先導しますとありますが、これは国際局がある意味だと思います。

外部の委員として国際局にそういう役割を期待しています。

議事（２）　令和７年度横浜市世界を目指す若者応援事業選考等の進め方について

【主な意見】

・平成26年から実施ということは相当数の延べ人数になると思います。

留学に行った若者たちが将来的にどういった職種に就き、国際的にどのように活躍しているかというデータはありますか。

　→大事なデータだと思いますが、追えていないのが現状です。

今回、事業を拡充するにあたり、追える仕組み作りをしっかりとしていきたいと考えています。

・語学留学として行くのか、自分の語学力や知識を用いて、海外で見聞を広めたり、トライしたりするのか、目的を明確にしないと成果が得られないと思います。

→長期留学に関しては、現地の高校に在学する形になりますので、語学よりは学びたいことが重要となると思います。短期留学に関しては、２週間からということで、語学学校に行くという方もいらっしゃいますが、語学の習得だけでなく異文化に触れる経験をして、次は長期留学でもっと研究分野を極めていただきたいという思いを持っています。そういった観点で長期留学の目的をしっかり聞いていきたいと思いますし、短期留学についても今回は語学が目的だったとしても将来的にどのように繋げていきたいかも聞いていきたいと思っています。

・留学はとてもよい経験となると思いますが、それ以降の人生経験で、どんな職業につくか、どんな夢を持つかは、変わっていくと思います。また、変わっていってもよいと思います。やはり後追いをするのであれば、補助を受ける方々には、大学進学の頃や、少し年月を置いた後に希望がどう変わり、どのような進路に進んでいったか報告をする協力を得ないと、補助を受けた方がグローバル人材としてどう成長するのかは追えないと思うので、そこを考えていくべきだと思います。

→後追いができるように進学や、就職、その後の活躍について、把握していくための仕組み作りをしていきたいと思います。

・プロセスに質問があります。高校生は一人ですか、保護者と一緒に行くのですか。

国は決まっていますか。 高校生が行き先を決め、そこから教育委員会等で踏むプロセスはありますか。

→国も留学の内容も決まっていません。

それぞれが、行き先や学びたい内容や言語などの目的意識に応じて、民間企業等の留学プラン等からチョイスし、留学に行っていただくものになります。長期留学は、一人で行くと思いますが、現地で何かあった際にはホストファミリーの交換や、カウンセラーに相談できる等のフォローがある留学パッケージで行く方が多いと思います。短期留学に関しても同様で、期間は２週間からですが、これもご自身で選び、行っていただくという形になります。何人かのグループで渡航し、別々のクラスに入るというものもありますし、成人の同行者がいる場合、高校が企画するプログラムに参加する場合でも使えるようにしています。

・対象が高校生の理由はありますか。

→大学生の留学に対する奨学金の給付は、大学や、他の機関が多数実施していると認識しています。

高校生の留学に対する奨学金制度は数が少ないと思っています。

さらに、大学生でも充分ですが、高校生で留学に行くことで将来の選択肢が早い段階で広げられる。そういったチャンスを後押ししたいという目的があります。

・選考等部会の部会員について決定（※当該部分の議論は非公開）。

報告（１）　アジア・スマートシティ会議2025（ASCC2025）について

【主な意見】

・国際学生会館は教育委員会が保有する施設で、YOKEが指定管理を受託しています。

留学生の方が100名以上暮らしていますが、留学生の力を横浜市の国際的な取組に活用していただき、留学生にとってもこれだけの規模の国際会議に参画できるということはすごくありがたいことだと思います。

・昨年のアジア・スマートシティ会議2024ではどのような大きな成果がありましたか。

→会議の最後に横浜宣言という形で成果を振り返る場を設けました。

昨年は脱炭素ということで、46か国、39のアジアの諸都市が集まり脱炭素社会の実現に向けて、「協力し技術交流や国際機関と連携し取組みを実施していきます」といった形で宣言をしたというのが一つの成果です。併せてビジネスの視点というところで、1,100のビジネス交流、200のミーティング（商談）を設けています。ここからビジネスに発展したという話も伺っています。現在進行形で商談を進めているというところです。

・海外からの参加数、場所、エクスカーション等は何かありましたか。

→昨年度は海外の都市等から200～300人に参加いただきました。

今年は11月27日に横浜市のインフラ施設等の視察を行います。都市からの参加者に対して、横浜市の廃棄物、下水道関係のＰＲをしていきます。

その他参考資料について

【主な意見】

・これまでのTICADの成果、経済効果について説明をお願いします。

→TICAD自体は外務省の主催です。外務省からの報告による過去３回のTICAD横浜開催の成果を第４回、第５回、第７回と資料に記載しています。第６回はアフリカ現地で開催しています。

50数か国から最大１万名の方に参加いただきました。波及効果も記載の通りで、第４回では15～16億円でしたが、直近の第７回の頃には27～28億円まで伸びています。

資料

資料１　委員名簿

資料２　令和７年度国際局運営方針・事業概要

資料３　令和７年度横浜市世界を目指す若者応援事業選考等の進め方について

資料４　アジア・スマートシティ会議2025（ASCC2025）について

参考資料　第９回アフリカ開発会議（TICAD９）について

特記事項

・令和７年度第２回ヨコハマ国際まちづくり推進委員会は10月下旬頃開催予定